

中小連携で大型案件受注

県内の中小製造業者がそれぞれの得意分野や独自技術を生かして連携し、単独では難しかった大型案件を受注するケースが増え始めている。

県南地域の中小製造業を中心に30社が加盟する茨城研究開発型企業交流協会(IRDA)。「我々は複数の技術が必要な注文にも応えられます」。仁衡琢磨会長は、つくば国際会議場(つくば市)で開かれた技術商談会の来場者に、自信

企業交流協会が接着剤

ロボット開発会社から



来場者にIRDAに関する説明をする仁衡会長(左)(つくば市で)

満々に説明した。

IRDAに加盟するピームトロン(城里町)、S.P.エンジニアリング(日立市)、清和製作所(つくば市)の3社は今夏、初の共同受注に成功した。国際的に産業用ロボット開発などを手がける安川電機(北九州市)から発注を受け、部品製造装置の試作機開発を手がけている。

3社はそれぞれが得意分野とする組み立て、設計、加工を分担。これまで大手が振り分けていた仕事を、中小の連携だけで実現できることを実践してみせた。

仁衡会長は「互いの強みを生かせる相乗効果を生み出したことで成功につながった」と振り返った。

IRDAには専門的な研究開発を行う中小製造業などが集まる。各社の得意分野を把握した会員企業の社員が高エネルギー加速器研究機構(つくば市)内に常駐し、研究機関からの要望や情報を受注につなげるよう調整した。

安川電機の技術開発を担当する「つくば研究所」(つ

くば市)の横山和彦所長は「高い技術力を持つ企業があることは知っていたが、細かい内容はわからなかった」。常陽銀行の紹介でIRDAを知り、技術力の高さに驚かされたという。

3社のとりまとめ役となったピームトロン(佐藤達志社長は「自社の技術だけでなく他社の技術力も検討して判断することが重要」と話す。今後は、独立行政法人などの研究機関だけでなく、民間からの受注も目指していくという。